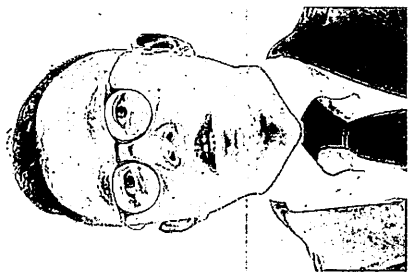


論 耕

薬物は罪ですか

芸能人らが、違法薬物の使用で逮捕される事件が相次ぐ。薬物の使用が「ダメ。ゼッタイ。」の日本では、犯罪として処罰されるだけでなく、社会的制裁も受ける。だが、それでいいのか。

強い偏見「転落」して知る



1978年生まれ。2003年NHK入局。著書に「僕が違法薬物で逮捕されたNHKをクビになった話」。

塚本 堅一さん

元NHKアナウンサー
依存症予防教育アドバイザー

危険ドラッグ所持の容疑で逮捕されたのは、念願がなつて東京のアナウンス室に配属されてしばらく経った、2016年1月のことでした。

連休中の朝、自宅のインターホンが鳴り、ドアを開けると麻薬取締部の人たちがずらりと並んでいて面食らいました。勾留後、50万円の罰金刑に。NHKは懲戒免職処分になりました。

なぜ薬物に手を出したのか。繰り返し聞かれてきました。ストレスやプレッシャーは確かにありました。新しい番組を任せられ、仕事は順調でもありました。多くの薬物使用者と同じように、何か大きなきっかけがあるというよりは、複合的なものでした。

薬物は偶然見つけたウエブサイトで購入したキットを使い、自分でつくりました。かつては違法薬物ではなかった

こともあり、気分転換ぐらいの感覚だったんです。

しかし逮捕・釈放後の私は「転落」します。薬物依存の症状ではなく「社会的制裁」によつてです。家を借りるにも断られ、仕事を探しても面接すらどり着けない。それもそのはずで、ネットで自分の名前を検索すると、根も葉もないことがたくさん書かれています。「薬でおかしくなつて、逮捕前日に新宿・歌舞伎町で大暴れしていた」とか。私、新宿にすら行っていません。外に出られなくなり、うつ状態になりました。

ニュースを報じる側にいた当時は、薬物犯罪も他の犯罪と同じように淡々と報じていました。ですが自分が報じられる側になり、初めて気づいたのが薬物使用者への偏見の強さでした。一度でも違法薬物を使った人を、あたかも極

悪人のように見てしまつた。意志の弱いダメな人。私はその偏見のイメージを自分自身に重ねてました。

うつ治療のため、薬物依存に苦しむ人たちが集まる施設に通いました。そこで見たのは、驚くほど普通と変わらない人たちです。薬との接点も、使用した事情も人それぞれ。「意志が弱い」や「反社会的」という言葉で特徴をくくれません。

最近も有名な薬物使用が繰り返して報道されましたが、薬物依存に苦しむ人たちに追い詰め、偏見を広げているのが報道です。罪を償つても、「もう絶対にしないと誓いますね」と追い、街の人たちの「がっかりした」という声が流れる。「反社会的で意志の弱いダメな人」というイメージが肥大化していきます。

薬物の問題は思わぬ理由で、あなたや、あなたの愛する人も直面しうる問題です。それなのに、薬物使用者に対し私たち社会が向ける視線は今もままでいいのか。「違法なことをしたお前が何を言っているんだ」と批判されつつありますが、私だから言える、変えて欲しいという願いでもあります。(聞き手・高久潤)



ト・伊坂 美友

人権